

シンポジウム 2014

社会・地域・産学連携の最前線を問う

—連携教育としてのPBLの可能性と課題—

アンケート結果

■第1部 学生報告

1. 2013年度プロジェクト科目履修生による報告は、参考になりましたか？

<教員>

- 2つのプロジェクトの具体的な取組内容や成果等が、臨場感をもって詳しく説明された
- 本学でもPBLを導入したいので参考になった
- 学生に限られた時間の中で主体的に取り組んでいることが伝わってきた
- 外部からの課題提示があって、学生がどの課題を選択するかなどに興味があった
- 成果報告の構成が大変しっかりしていて、今後の指導においてモデルとして活用させて頂きたいと思った
- 学生自身がこのプロジェクト科目による経験を、自分の中でどう意味づけているのかもできればもう少し聞きたかった
- 学生視点での発表がよかった
- 1年間の学生さんの取組を短い時間で適確にまとめてあり、感心した
- 課題設定プロセスを聞きたかった
- 内容がやや浅い、平凡、一般解、特徴不足
- 短い期間であったと思うが、立派に取組を発表されていたと思う
- プレゼンがしっかりできていた

<職員>

- 学生当事者から、学びや成長、苦労などうかがえた。あわせて教員やクライアントの方からも話のうかがいたかった
- 学生の発表の仕方やプロジェクト内容は参考になった
- 学生の成果報告会でのイメージ作りにつなげることができた
- 課題を認識できた
- 簡潔な報告の中身、方法ともに参考になった
- 発表が少しあっさりし過ぎていた印象。そのテーマ、実施することに至るまでの経緯をもっと聞きたかった
- 「学成果報告書」に書いてある以上の内容があまりなかったように思う
- どちらのプロジェクトにおいても、ただ地域と関わり貢献するだけでなく、地域をまとめて一体化させたところに成長のポイントがあるというのが分かり、参考になった
- 学生の得た成果がよく分かった
- 現役の大学生の話が直に聞けて良かった
- 上手く報告されており、本学の学生たちにも聞かせたい

<学生・生徒>

- プロジェクトについて詳しく知ることができた

<企業関係者>

- 1年間で課題→結論は難しいかも。2年とか、単位数を倍付けとかで、深掘りをしてほしい
- 京都という地域性が色濃い特性を活かしての取組と、学生さんの主体的な取組について知ることが出来て参考になった
- 活動の事例として参考になった

<その他>

- 大学生が地域の活性化に取り組むのは大変良いことだと思う
- 女性も遠慮せず、もっと前に出て発表しても良かったのではないかな

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- ご報告のあった2つのプロジェクトとも、大変意義のある素晴らしい取組であると感じた。学生の発表も自信が感じられる堂々としたものだった。PBLが目的・手段双方で非常に有効に機能しているのだと思う
- 学生さんが吉野山、伏見との連携という課題探究型授業の中で、学習意欲が向上する様子は参考になった
- 学生さんによって報告されたプロジェクトについて、課題を提案した「社会の方々」からの評価も聞くことが出来ると良いと思う
- 勤務校でも同様の成果発表の機会があるので、発表内容の取りまとめ方、発表方法等参考になった
- 1年間の授業終了後も活動を継続していることは、課題解決には継続した取組が不可欠であることを示している
- プロジェクト活動の履修方法や、制度的なことの紹介があっても良かったかなと思った。何回もシンポジウムに参加している先生方ばかりだから必要ないでしょうが…。わからないとイメージがとりにくいかも…
- 大学側の教職員の関わり、各プロジェクトの学生の学部・学年の比率等を教示していただければ幸いです
- 今回はCOC中心(のみ)であったが、産学連携PBLを聞きたい。即ち、どう経営に貢献したか。又、目的は教育にあるのか、地域活性化にあるのか、地域に迷惑がかかっているか等お聞きしたい
- 話題の中にあっただが、PBLを通してどのような時に葛藤を感じたか等をぜひ共有化してもらいたかった
- 問題を発見・設定するまでの試行錯誤の過程の実際が見えないのが、「どちらとも言えない」と感じた理由だ
- 伏見のプロジェクトは学びのプロセスが理解でき、参考になった

<職員>

- 継続性・持続可能性の問題が悩ましい
- 学生の発表がとても分かりやすく、また自信を持って発表する姿が素晴らしかった。プロジェクトについても成果がきちんと出ていて、レベルの高さを実感した
- 質疑の時間に込められていたが、個々の学生の変化やグループワークの過程で起きたことについても、報告として盛り込んでいただきたかった。
- プロジェクトに関わった学生数、地域の方の人数など、もっと具体的な話も聞きたかった
- 「海外にばかり目を向けていたが、プロジェクト活動を通じて、日本にも感心を持つようになった」という言葉が印象的だった
- 強いて言えば「活動を通じてどう変わったか」、「成長を実感したか」という部分をもっと聞きたかった
- いずれのチームの発表も興味深い取組をされていると感じた。また、発表が非常に分かりやすく感心した
- 両チームの方が、「地域への関心を持つようになった」とおっしゃっていた。こうした「つながり」が生まれたこと＝地域との連携（根本的なところで）ということなのかな…と思った。こういう意識の「つながり」があつてこそその地域との連携だと思った

<企業関係者>

- 「『地域を好きになってもらう』という目的が『自分が好きになっていた』」という言葉に興味を持った
- 研究過程を通じて、学生の学び・成長に役立つところは理解できる

<その他>

- 発表時間が不足するところ、シンポジウムで活発な意見交換があり、密度の濃い掘り下げた議論になったと思う。コーディネーターの運び方が秀逸であったと感じた

■第2部 連携取組紹介

1. 各大学の取組紹介は、参考になりましたか？

<教員>

- 大学により、特性のあるPBLを知ることができた
- 各校、どの年次開講等、どういうゴールを設定されているのかが分かった
- 各校、特色が色々あつて、これで良いのだと思えた
- 各大学のおかれた状況に応じた連携教育のあり方で、それぞれが工夫している点が評価できる。学生たちの主体性をもり立てる方法もいろいろある
- 4大学それぞれの取組に、それぞれ参考になる事柄が含まれており、大変勉強になった
- 各大学、もう少し長い時間聞きたいと思う、興味深いものだった
- それぞれの大学の状況がよく理解できた
- PBLの講座をどこに入れているか、どう選択するのか等各校違うと思うので、それを説明される（もしくは資料がある）と良かった

- 各々の大学の取組について、先進的で実効性があり、とても勉強になった
- 4つの事例すべてが参考になった
- 取り入れてみたい点があった
- 国公私の事例をうかがうことができたので、大変参考になった

<職員>

- 現状と課題が明確に伝えられ、本学に参考になる事例もあった。もっと詳しく話したいとも感じた
- 各大学の長が聞けてとても参考になった
- 特に広島修道大の山川先生のプロジェクトの進め方が参考になった。大学の支援の在り方、地域との連携の在り方、自ら予算を学生が決める場所、グローバルイノベーションプログラム等
- 各大学の取組が分かりやすく聞けた。特に北九州市立大学の紹介がよかった
- やはり成績評価が課題ですね
- それぞれの大学での取組や考え方・課題等、本学での取組を考えていく中で参考にさせていただきたいと思う

<学生・生徒>

- 全国でこのように地域連携教育が行われていることがあり、勉強になった

<企業関係者>

- PBLがどういう計画で行われているか大変参考になった
- 大学、地域との関わりを再認識できた！
- 北九州市立大学さんの取組が大学らしくなく珍しい取組で、卒業生は新卒ながら即戦力として有望な人材になりそうな期待感を感じた

<その他>

- 世の中で生きていく大事な要素が含まれる、PBL教育の可能性を大いに感じた

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- 先生方の持ち時間がもう少しあっても良かったかなと思う。PBLの活動を地域に根付かせていく大切さ。学生と学校と相手しか知らないことが多い。地域に学生のイメージがあれば良いのではないかと思えるようになり、とても勉強になった
- 学内の組織において、地域連携に積極的でない教員に対して、どのようなアプローチがあるのか、教えていただけると幸いです
- 地域性や大学の特色により違いはあると思うが、大学の役割としての地域との関わり・貢献が必要であると改めて感じた
- 大学教育におけるPBLが、試行の段階から組織的な実践の段階になっていることを実感できる取組紹介であったと思う
- いずれのご報告も非常に興味深いものだった。もう少しゆっくりお話を伺いたいと思った
- 成熟した取組で大変参考になった

<職員>

- 博士課程教育リーディングプログラムにて大学院生 PBL の構築を検討・企画中であり、参考になった
- やはり、お一人お一人の報告時間を長くとっていただき良かった
- 使用されたレジュメ、P P が閲覧できたらありがたい
- 学生の変化・成長・受講後の部分が全体的に少なかったなので、その部分がもっと聞きたかった
- 特に北九州市立大学の取組に関心を持った。学生にとっては厳しいプログラムだと思ったが、志願者数も高いということで、ニーズもあり、他大学にも同様の取組が波及すればと感じた
- 成績評価の難しさを実感した。成績評価が必要なのか？
- 教員と職員との関わり方が重要だと思う。プロジェクト（PBL）に携われる教員は少ないし、職員も少ないと思う

<企業関係者>

- 「学生は地域の担い手」「学生の主体性」「学生のマナー」。(これらを) 教員の力により引き出すことは可能だと思った
- 学びと仕事のつながりを示すのが難しいと感じた
- 各大学の発表の時間が短い。件数を少なくして時間を長くした方がいいのでは？
- 各大学の事例と課題が参考になった

■パネルディスカッション

1. 「大学と地域がつくる連携教育の可能性について考える」は、参考になりましたか？

<教員>

- 大学の立ち位置と地域の立ち位置を見極めることの重要性を把握して実施しないと、中身が伴わないということが理解できた
- よりフランクなお考えが聞けて一番面白かった
- 4つの観点からのディスカッションで、連携教育の一部がわかった
- 本学の教職員に聞かせたい事柄の連続だった。HP への UP を心待ちにしている
- いいキーワードをたくさんいただいた。連携教育が学生にもたらすアウトカムをどう定義づけるのか、そしてそれが企業（社会）からどう評価されるのか、そこがこれから考えたいポイントだ
- 先生方の意見がとても参考になった
- 連携教育の課題が理解できてよかった
- 学生（大江さん）の質問が良かった
- 共通の課題（継続性、持続性など）が参考になった
- どの先生もパワフルだった。もっと聞きたかった

<職員>

- 地域連携における大学の立ち位置、これからの在り方について、とても参考になった
- 地域との関わりの中で、教職員の果たす役割のヒントになるような知見を得られた

- 非常に中身の濃い内容だった
- それぞれの取組の特色や実情がよく分かった
- パネルディスカッションという場が上手く活かされていない（聴講者の質問の場が全くなかった）。話は参考になったが、参加者全体で考えることができなかつたのが非常に残念であった
- 学生・教員＋職員もタフにならないと…

<学生・生徒>

- 大学の方々が様々な想いを持って大学教育に取り組んでいるということが理解できて良かった

<企業関係者>

- 各大学様の取組に関する課題や悩みについて、話を聞くことができたのが良かった

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- 正課としての成果の指標●●●評価方法はどのようにしているのかも課題の1つ
- 学生の質問が私たちの聞きたいことだったりした
- 登壇した学生さんの発言がしっかりして、頼もしく思えた
- 4人の課題に挙げられていた「評価」について、議論されなかつたのが残念です
- 学生からのトークセッションをぜひ次回は増やしてほしい（学生から質問させる形式はよかった）
- 実質的なディスカッションをコーディネートしていただけたと思う

<職員>

- とてもおもしろかった。学生の声も聞けて良かった
- カリキュラムとの関係等もっと話が聞きたい
- 具体的な話が聞け、大変参考になった。大津先生の学生へのコメントで「経験できたことが良かった」という部分がとても良く、かつ、本質であったと思う

<企業関係者>

- 司会の方がしゃべりすぎだと思う。当事者の学生にももっとしゃべらせてあげて下さい。学生主体のプロジェクトのはずだ

■その他、ご意見やご感想

<教員>

- 貴学のPBL取組はいつも参考にさせていただいています。ありがとうございます。
- 「PBL」を題材として、いろいろな発展・可能性があるのだということが光明だった
- 学生もディスカッションに入ったことはよかった
- 学生が地域に入っていく、そして大学と社会が交流して、互いに存在を認め合うきっかけを作ること、PBLは役立つのではないかと、広報をするよりもうんと大学の存在を伝えていけると思った

- 本日はとても素晴らしいシンポジウムを拝聴でき勉強になりました。最後に山田先生が指摘された、評価指標のテーマについてのシンポジウムを開いていただければと思った
- 第2部に関して、会場からの質問を吸い上げる仕組みを設けて欲しかった
- ぜひ、他地域の大学と連携したセミナーを、他地域で開催していただけるとうれしい
- PBL連携教育の議論としては、一定、飽和状態に達しつつあるような印象を持った

<職員>

- 悩ましいですネ…。でも、とてもおもしろいテーマだ
- あっという間の3時間だった。それぞれの大学ごとのプロジェクトの特長や考え方が良く分かった
- もっとお話を聞きたいと思った。
- 素晴らしい先生方で、大変勉強になりました。
- 先生方の学生に対する愛情が感じられる良いシンポジウムだった
- PBLを通じた学生の「主体性を育む人材育成」が、今後の大学生育成のキーポイントになるのではないかと思った
- PBLではなく、私の職場作りにも活用できそうなものをもらった
- いつも大変参考にさせて頂いています。ありがとうございました

<企業関係者>

- PBLを通して、学生の学びの習慣がつくとよいと思う
- 今日は一社会人として話を聞かせて頂いたが、最近の学生は多様な社会ニーズに対応すべく多様な取組をしていることがより深く理解できた。引き続きシンポジウムに参加したいと思うので、よろしくをお願いします
- 企業として産学連携にどのように参画できるか、大学側でHP上に明示してほしい。少しの経費で何らかの連携ができるのであれば、協力したい

<その他>

- このような活発なシンポジウムは繰り返し実施して欲しいと強く思う
- いつもながら、山田先生の名コーディネーターで先生方や学生の本音を活かしながら、地域連携教育の本質的な内容が語られて、非常にわかりやすく理解できた。今後ともこのような取組に参加させていただきたく思っている